

# 落第から留年へ

## —新聞記事の言説分析を通して—

安藤汐美（早稲田大学大学院）

した先行研究はない。

### 1. 問題の所在

本研究の目的は、大学における「留年」が社会でどのように語られてきたのかを明らかにすることである。全国紙の記事上で、大学における「留年」がどのように語られてきたのかを経年的に明らかにする。

本研究で「学生論」ではなく「留年」に着目するのは、以下の理由からである。単に社会が大学生をどのように語るのかを明らかにするのではなく、社会が「4年間で大学を卒業すること」をどのように語っているのかに着目することは、「大学4年間の学び」や「大学卒業後」、つまり大学の「中」と「出口」に関わってくると考えるからである。「中」つまり、大学教育のどの部分に社会が注目しているのか、大学の「出口」と社会がどのように接続しているのかを知る上で、「留年」という現象に着目する価値がある。

「留年」に関する先行研究は主に以下である。嘉部和夫(1988)、山田和夫(1988)、笠原嘉(1984)や山田健・天野郁夫(1980)は心理的・精神的側面から留年の要因を分析している。また古橋啓介(1988)は、学生の留年の背景には、大学入試試験の成績が留年に影響を与えていることを、文系理系に分けて説明している。

小林信一(1999)や朴澤泰男(2012)は学校基本調査を使用し留年率を経年的に調査し、進学率や景気変動との関連を述べている。しかし、「留年」が時代ごとにどのような語られ方をしてきたのかを明らかに

### 2. 分析方法

本研究では、KH Coder(Ver.2.Beta.32h)を用いて、計量テキスト分析を行った。分析の対象は、新制大学設立期の1945年から2014年の『読売新聞』で「留年 AND 大学」の検索にかかった全697件の記事から、筆者が大学における留年に関連する記事と判断した、全311件を対象とした。

### 3. 分析結果

まず筆者は内容分析を行い、1945年から2014年を大きく3つの時代に区分した。第一期は1950年から1960年代である。第二期は1970年代から1990年代である。第三期は1990年代から現在である。以下で、上記の三期それぞれの特徴を見ていく。表1、表2、表3はKH Coderの抽出語リストの「名詞」「サ変名詞」「形容動詞」の上位15語を表にしたものである。

#### 第一期 1950年代から1960年代

まず、表1の「1950~1969」を見ると、教養課程や専門課程との関連で「留年」が語られていることが分かる。また以下の記事が見られた。

「講義について行けず留年する学生が増えるのでは、予算を使って落第生を製造しているようなもので、こんなムダ使いはない。」（読売新聞、1967年2月28日朝刊1ページ、下線筆者）国立大学に通う学生への批判という語りが目立つ。

#### 第二期 1970年代から1980年代

表1の「1970~1989」からは「青年」、表3の「1970~1989」からは「熱心」や「ダメ」といった語が見られた。以下のような語りの記事が見られた。「最近の留年は、昔の落第と質的にも違い、量的にも多くなり、学生もそのことをあまり気にしなくなってきたのが特徴である。むしろ、大学生活を一年余分に楽しむという現代の優雅な学生気質を象徴しているようにも思える。」（読売新聞、1975年3月28日朝刊2ページ、下線筆者）

#### 第三期 1990年代から現在

表2の「1990~2014」から明らかのように、「就職」や「内定」といった語が多く抽出され、就職活動に関連する文脈で語られることが多いことが明らかとなった。また以下の語りが見られた。

「埼玉県の私立大4年ミノルさん(22)（仮名）にとってクリスマスイブは『就職活動の一日にすぎません』。卒論も仕上がっているが、就職が決まらないなら留年する覚悟だ。」（読売新聞、2008年12月27日朝刊1ページ、下線筆者）

#### 4. まとめ

内容分析から1945年から2014年を大きく三つの時期に区分した。第一期では、国立大学の教養課程から専門課程に進学する際の留年が多く語られていることが分かった。第二期では、大学生のモラトリアムや甘えのような文脈で「留年」が語られていた。第三期には、就職活動の文脈で「留年」が語られていることが明らかとなった。以上から、「留年」は「学力不足」から「やる気のなさ」そして「就職活動」という語られる文脈の変化が明らかとなった。社会が「留年」を語る際に、学生の学力低下の問題から、学生個人の問題、そして社会の問題と語る視点が変化したことが本研究から明らかとなった。

表1. 名詞（上から順に上位15語）			表2. サ変名詞（上から順に上位15語）			表3. 形容動詞（上から順に上位15語）		
1950~1969	1970~1989	1990~2014	1950~1969	1970~1989	1990~2014	1950~1969	1970~1989	1990~2014
大学	学生	学生	教育	留年	就職	生	熱心	必要
学生	大学	大学	進学	卒業	卒業	大量	必要	可能
教養	教授	企業	就職	勉強	内定	可能	孤独	重要
課程	番号	自分	勉強	生活	活動	自然	特殊	普通
国立	高校	社会	入学	就職	採用	不安	ダメ	好き
専門	学籍	教授	アルバイト	受験	教育	こんな	安定	様々
学部	社会	会社	生活	下宿	調査	さまざま	高度	安定
大学生	女子	単位	活動	試験	授業	だめ	困難	変
単位	無籍	大学生	卒業	成人	支援	にぎやか	自由	明らか
精神	学部	時代	調査	講義	試験	へた	質的	自由
ムダ	大学生	新卒	休学	出場	入学	わがまま	小規模	主
科目	入試	英語	試験	落第	相談	ギリギリ	深刻	新た
原因	新入生	高校	受験	アルバイト	生活	ムダ	着実	優秀
私立	自分	容疑	授業	入部	希望	悪質	優雅	深刻
成績	青年	センター	相談	話	求人	圧倒的	いい加減	大幅